

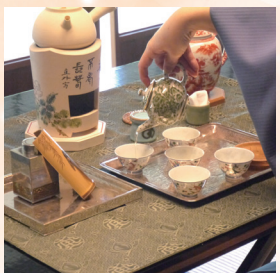
お茶を楽しむ時間を大切に

煎茶道方円流家元 水口豊園氏



文化の秋、まろやかな甘みと深い香りのお煎茶を味わってみませんか。

昭和57年から開催され、区民の皆様が親しまれている左京区民煎茶会で、お手前をされている方円流家元の水口豊園氏にお話を伺いました。



※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で昨年度に引き続き、今年度の左京区民煎茶会は開催されません

文人趣味と平等の精神

煎茶道は、中国の明の時代に、注1文人達がお茶を飲みながら焼き物などの道具を観賞し、絵を描いたり詩を読んだりして楽しんだことに由来しますので、話しながら楽しくお茶をいただくことを大切にしています。美味しく味わうのはもちろんですが、煎茶の道具は、季節を感じる絵柄の器や、茶会の主旨に合わせるなど趣向が凝らされており、それらを話題にして楽しむことも茶席の面白さの一つです。こうした会話は雑談とは異なり、心を豊かにする会話です。

また、お茶は小さい5つの器(湯呑)で供しますが、お客様が3名でも4名でも必ず5つの器に入れます。その場にいる人が全て平等であるということを表すため、全ての器のお茶を同じ量、同じ濃さになるよう気を配ります。

心を潤すお茶

煎茶や玉露は、茶葉を変えずに一回二回と急須にお茶を入れて、味わうことができ、これを一煎目、二煎目と呼んでいます。一煎目は、お菓子を食わずにお茶だけを飲むことでその香りとほのかな甘みを味わい、次に配られたお菓子をいただくから、二煎目を飲みます。二煎目のお茶はまた違った味がします。

茶席では、小さい器に入れるため、たくさん飲むことはできませんが、味と香りが凝縮されたお茶になっています。

海外で茶席を催した際には、「少なすぎると注2水屋までお代わりを求めて来られたこともあり、「このお茶は喉の渴きを潤すのではなく、心の渴きを潤すのです。」と説明したこともありました。

また煎茶の大切な心得として「自由」があります。基本はしっかりしながらも季節や世情に合わせて、自分の考えてアレンジを

加えます。

今は全国のみならず、台湾や中国にも支部があり、それぞれの土地に合わせて稽古を行っています。

自宅でも煎茶を

ペットボトルのお茶

が普及し、自分でお茶を入れて飲む機会が減ったと感じますが、ご家庭でも煎茶をお飲みいただきたいですね。

ご家庭で気軽に楽しめるのでしたら、急須に茶葉を入れ、80℃位のお湯を注ぎます。お茶が出るのに一分程度かかるため、その間に湯呑みにお湯を入れ、温めておきます。

全ての器が同じ量、色になるように注意し、ぜひ二煎目も入れてみてください。

昨今は、新型コロナウイルスの影響で、全ての茶会や稽古が中止になりましたが、同じ急須のお茶を分け合い、楽しく会話をすることに煎茶道の良さがあります。また皆様に煎茶をお出しできることを楽しみにしています。

注1 詩文・書画など、風雅の道に心をよせている人

注2 茶室に付属する台所のような所

水口豊園みなぐち ほうえんプロフィール

代々医者の家系に育ち昭和46年に流祖である義母より家元を継承し、二世水口豊園となる。



軸掛けの時も稽古の飾りやお花が飾られています。

煎茶をいただく作法(方円流)

- 一、お茶席では、時計や貴金金属類を外しておく
- 二、お茶を飲む前に茶托ごと少し上に掲げ「頂戴します」等と言って感謝の気持ちを表す
- 三、茶托を持った左手を左太ももの上部に置いて、右手で器を持ちお茶を飲む

方円流の皆様のご協力のもと、煎茶文化の魅力を発信する動画を撮影中。お楽しみに！